

植調協会だより

◎ 人事異動

平成 26 年 2 月 1 日付
任 事務局

仮谷 道則

「話のたねのテーブル」より

ドラゴンフルーツ

鈴木邦彦

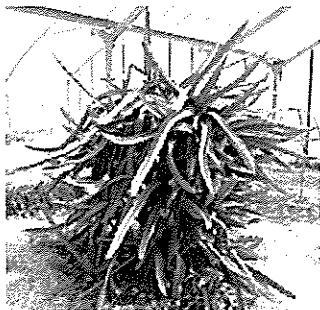
ドラゴンフルーツは、龍のように勢よく伸びる茎に着く果実に由来する。一般にドラゴンフルーツと呼ばれる果実は、メキシコを原産地とするサボテン科の植物で、赤い果実の中に柔らかくほのかな甘みのある果肉があり、デザートやサラダ、シャーベットなどに利用される。植物学的には三角サボテンと呼ばれる幹の断面が三角形で長大な登攀性の植物で、岩や垣根、樹木などに絡んで伸びる。その長さは 17～18m にも及ぶという。充実した茎(枝)の稜には脇芽があり、多くは 1～3 本程度の小さな棘を生じる。枝の先端に近い部分の充実したいくつかの脇芽から 3～9 月頃に蕾を生じ、月下美人に似た美しい花を咲かせる。花は長さ 30cm 程度の大型で、多数の黄緑

色の外花被と白色の内花被を着け、その内側に多数の雄しべを着ける。

さらに中心に 1 個の子房を形成し、その先端は分岐して多数の柱頭を形成する。夕方から開花し、一晩で閉じる。

繁殖は実生や挿し木、接ぎ木などによって行われる。実生は 3～4 年すると花を着けるといので、果実を食べた後に一部果肉を残しておき、鉢に川砂を床土として入れ、播いてみた。数日から 10 日程度で双葉が出た。双葉の間から柔らかい綿毛状の棘が見えると間もなく小さな多肉の茎(サボテン)が伸びてくる。生育の適温は 18～25℃程度だといふから、関東地方では温室を持たないと栽培は難しそうである。

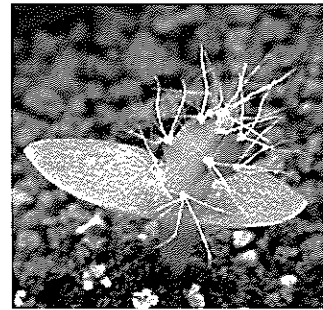
(話のたねのテーブル No.200 より)



▲茎の伸長の様子



▲一夜だけ花が開く



▲種からの芽ばえ

公益財団法人日本植物調節剤研究協会
東京都台東区台東 1 丁目 26 番 6 号
電話 (03) 3832-4188 (代)
FAX (03) 3833-1807
<http://www.japr.or.jp/>

編集人 日本植物調節剤研究協会 理事長 小川 奎
発行人 植調編集印刷事務所 元村 廣司

東京都台東区台東 1-26-6 全国農村教育協会
発行所 植調編集印刷事務所
電話 (03) 3833-1821 (代)
FAX (03) 3833-1665

平成 26 年 2 月発行定価 525 円(本体 500 円+消費税 25 円)
植調第 47 巻第 11 号 (送料 270 円)

印刷所 份ネットワーク